



国際会長 K・C・サミュエル(IND)
 “Into the next 100 Years with FELLOWSHIP & IMPACT”
 アジア太平洋地域会長 チェン・チ・ミン(TWN)
 “Elegantly Change with New Era”
 東日本区理事 佐藤 重良 (甲府21)
 「未来に向けて今すぐ行動しよう」
 湘南・沖縄部長 小松 伸史 (厚木)
 「楽しく・元気よく・前向きに」
 クラブ会長 今城 高之
 「楽しく、なにはさておき楽しく！」

2022-2023 クラブ役員
 会長 今城 高之
 直前会長 辻 剛
 書記 岡田 美和
 会計 横田 孝久

今月の聖句

そればかりでなく、苦難をも誇りとし
 ます。わたしたちは知っているのです、
 苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練
 達は希望を生むということ。

ローマ人への手紙 5・3-4

《寄稿》 「天国はあなたの気に入らない人も一杯いる所」 鈴木 茂

スイスの有名な神学者カール・バルトが、親しい知人か
 ら“天国とはどういう所か”と尋ねられた時の返事が標
 記の回答であったと、伝えられています。これはバルト特有の
 ジョークとも考えられますが、彼自身が1934年、ヒトラーへの
 忠誠宣誓を拒否したために、ボン大学教授の退職処分を受け
 てスイスへ逃れざるを得なかったこと、彼の神中心・キリスト中心
 の壮大な神学体系を樹立する過程において、人間中心的な近代神学の主流
 勢力と学問的な論争を展開してきたことなどを勘案しますと、標記は彼自身が
 自分に言い聞かせた言葉であるようにも思われます。



ひるがえって自分自身のことを考えますと、私たちの周りにはたとえ職場にお
 いても、地域の自治体においても、どうしても折り合いの良くない苦手な人たちが
 いるように思われます。その原因を探ってみますと、過去の意見の対立、相手の
 不誠実・不寛容な姿勢さらには相手の無理解・無配慮・一方的な自己主張な
 どを挙げたくなります。しかし、それはいずれも自分自身を正当化しようした立場
 からの見解かもしれません。そもそも、相手への思いやりの姿勢が不足していたの
 かもしれません。人間は元来、罪深く弱い生き物であるという基本認識が欠けて
 いたようにも思われます。

イエス・キリストは私たちに「隣人を愛しなさい」と教えられました。この教えを守
 ることはとても難しいのですが、少なくとも人を非難・誹謗し、隣人との間に壁を
 築くことは、この世に生きている間は、避けるように心がけたいと改めて思います。
 神様はすべての人を愛しておられるので、天国に私たちの気に入らない人が沢
 山いても、考えてみれば当然のことです。

それにしても、仮に私たちが天国に行くことができたとしても、この世における人
 間的な思いを天国まで持ち込むことができるのかどうか、信仰の薄い者には聖書
 を読んでよくわかりません。標記のバルトの名言は、私たちがいたずらに、天国
 のことをあれこれ詮索する前に、この世にあって神と隣人を愛し、誠実かつ謙虚
 に生きてゆきなさいという教えであると理解したいと思います。

(2023年1月31日)

2023年2月本例会

日時 2月24日 (金) 17:00～

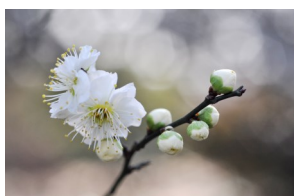
場所 かけはし都筑

司会 横田孝久 受付 鈴木恭子

=プログラム=

1. 開会点鐘
2. ワイズソング・ワイズの信条唱和
3. 今月の聖句と祈禱
4. 会長挨拶
5. ゲスト・ヴィジター紹介
6. 卓話
横浜北YMCA 太田 聡さん
7. 協議・報告事項
8. YMCA報告
9. Happy Birthday
10. アピール・スマイル
11. 閉会点鐘

(1月のデータ)



例会出席	12名	在籍会員数	16名	各種記録	1月実績	年度累計
メンバー	10名	月間出席者数	12名	スマイル	0円	30,000円
ビジター	0名	メ・キャップ	1名	—	—	—
ゲスト	2名	月間出席率	81%	—	—	—

《例会報告》 2023年1月度本例会報告

報告担当 鈴木 茂

日時：1月27日（金）17:00～19:00

場所：かけはし都筑

出席者：相賀、今城T・H、大野、鴨下、坂口、

鈴木K・S、辻Ta・Tsu、林、横田

ゲスト 山本美津子さん（卓話者）

岡崎さよ子さん（合計14名）

【議事次第】

1. 開会点鐘 今城高之会長
2. ワイズソング・ワイズの信条 一同
3. 今月の聖句 と祈禱「イザヤ30・15」
相賀 昇チャプレン
4. 会長挨拶 今城高之会長
5. ゲスト・ビジター紹介
本日の卓話者の山本美津子さんと休会中の岡崎さよ子さんのご紹介。
6. 2022-2023年度第2回クラブ総会
議長・今城高之会長
議題：2023-2024年度クラブ会長・副会長選任の件
協議の結果、次の通り議決決定。
2023-24年度クラブ会長：今城高之（再任）、
同副会長：鈴木 茂（2024-25年度会長含み）。
7. 卓話「都筑の武将たち」 山本美津子さん
*山本美津子さんは、今城宏子さんの民生・児童委員のお仲間で、20年来のお知り合い。
*山本さんは35歳頃から歴史に関心を持たれ、30年以上も郷土史を中心に日本の歴史を学んでこられた。各地の史跡も実地に探訪された。
*「つづきクラブ」が現在所在する「都筑」の地は、「日本書紀」にも出てくる古代・律令国家時代からの地名で、史跡、城址も多く、豊かな土地であったことが窺われる。
*鎌倉時代以前の「都筑」には、馬飼、乗馬の得意な豪族たちがいて、次第に武士団に成長していった。領地は、現在の佐江戸、池辺あたりと言われている。

*戦国時代以降、この地は小田原北条氏に支配され、その重要拠点が「小机城」であった。

*「都筑」の地で活躍した武将たちに関連して、「小机城址」のほか、「荏田城址」（城主・江田源三）、「山田城址」（鎌田正清）、「有馬城山城址」（窪田又五郎）、「茅ヶ崎城址」（多田行綱）、「川和城址」（熊井太郎）、「佐江戸城址」（猿渡内匠）、「池辺城址」（中田加賀守）、「榎下城址」（上杉憲清）、「榊形城址」（稲毛三郎重成）、「篠原城址」（金子十郎家忠）等の史跡について、地図を辿りながら、城主のエピソードも交えてお話し下さった。

*卓話の後、多くの質問が出され、出席者の関心の強さが窺われた。

8. 報告事項：

(1) ウクライナ避難民の方々のために、大野君枝さんを中心にTKBが準備した手作りマフラーは、2月6日「十日市場ケアプラザ」にてウクライナの方々にお渡しする。

9. YMCA報告 鴨下純久北YMCA館長

- (1) 2月11日（土・祝日）、横浜YMCAの会員大会-ピースフォーラム-が湘南とつかYMCAで開催される（Zoom併用）。「機動戦士ガンダム THE ORIGIN」の原作者・総監督・安彦良和氏による「歴史から学ぶ戦争と平和～人と人とが分かり合える世界とは～と題する講演。
- (2) 2月19日（日）と3月11日（土）に新横浜駅前横浜YMCA国際地域協力募金のための街頭募金を行なう。参加者を募りたい。
- (3) 3月3日（金）13:00-15:00、横浜北YMCA3階スタジオで認知症サポーター養成講習会・認知症予防体操（コグニサイズ）を実施する。参加費無料。

10. Hppy Birthday : 胡麻尻眞佐さん（1/10）、
鴨下純久さん（1/16）

11. 閉会点鐘 今城高之会長

以上

※以下は卓話者山本美津子さんのブログ（と思われる）です。

[gannyan1953さんのプロフィール/エキサイトブログ \(blog\) \(exblog.jp\)](https://gannyan1953.exblog.jp/)

《報告》 つづきクラブのウクライナ支援始まり！：

当クラブのTKBでは、クラブ最新人の大野君枝さんの発案で、寒さと戦うウクライナの方々に、手編みのマフラーや帽子を贈るプログラムを始めました。そのスタートぶりをTKBメンバーが報告いたします。（TKB: Tsuzuki Kawaii Bachans）

東日本大震災が起きた直後、友人から「ある米国女性の呼びかけで、手編みのものを寒い日本の被災地に届けようという運動が始まった。日本からも参加しない？」と誘いがありました。私は編み物が大好きでしたが、当時、身内の不幸に落ち込んでおり結局参加できずに終わってしまいました。

しかし昨年来、ロシアによるウクライナ侵攻のニュースが放送されると、極寒の中でも懸命に耐えておられる市民の姿をたびたび見る事になり、何か私にもできることはないかと、思い出したのが、編み物での支援でした。今度こそ日本から、手編みの温かいマフラーや帽子を現地へ送りたいと思ったのです。つづきクラブのメンバーに相談すると、「それ、やってみようよ」と後押しをいただき、友人達からは「私達にもぜひ手伝わせて」と、どんどん協力の輪が広がりました。あつという間に50点以上の色とりどりの作品が集まり、一つ一つに“To Ukrainian from Japanese Grandma”（ウクライナの方々へ、日本のおばあちゃんより）とタグをつけましたが、その輸送方法がなかなか見つかりません。どうしたらよいかと悩んでいる折に、横浜YMCAが直接渡せる機会を作ってくださいました。

2月6日、ウクライナ避難民の交流会「みどりクラブ」にて、「応援の心を込めて編みましたので、どうぞ好きな物をお友達の分もお持ち帰りください」と通訳していただくと、皆さんがわーっと笑顔になり、どれがいいかなと楽しそうに選んでおられました。「私達のことを思いながら編んでくださったことが一番嬉しい」と言ってくさる方や、覚えた日本語で「アリガトウ」とお礼を伝えてくださる方もいて、ウクライナ語はわからなくとも心が通じて私達も嬉しかったです。

この企画には編み手の方々はもちろん、毛糸の提供やメッセージの縫い付け、包装等にもご協力を頂きました。太極拳千城会の皆様の応援も本当に感謝です。私達は思いもかけずウクライナの方々に直接お目にかかれ感激しましたし、また喜んで頂けるならつづきワイズメン&ウィメンズクラブを通してしばらくこの活動を継続して行けたらと願っております。

ウクライナに平和な春が一日も早く訪れるよう針一针に祈りを込めて編んでいきます。（大野君枝 記）

「みどりクラブ」※ 横浜YMCAブログより

横浜市内にはウクライナから避難した多くの方が暮らしています。そのなかで緑区近隣で生活するウクライナの皆さんが出会い、情報交換や交流する場として「みどりクラブ」をスタートしました。「みどりクラブ」は同じ地域で暮らすウクライナの皆さんが、ゆるやかに集まり、話したり、やりたいことをする場所です。皆さんが暮らしやすくなるように地域のことを紹介したり調べたりする場所です。

第1回が2月6日に十日市場地域ケアプラザにて開催され11名のウクライナの方々が参加されました。

横浜YMCA（東本郷地域ケアプラザ、生麦地域ケアプラザ、鶴見中央地域ケアプラザ）のスタッフによって様々なプログラムが用意され、きめ細かな活動がされていました。

会の終わりごろに私共のクラブメンバー有志（辻 剛さん、辻孝子さん、大野君枝さん、今城宏子）が参加させて頂き、手編みのマフラー、帽子を並べてウクライナの皆さんにお好きなものを選んでいただきました。詳しくは大野さんのご報告に記されています。（今城宏子 記）



手作りマフラー、帽子の製作にご協力下さった大野君枝さん、辻孝子さんのお友達のお名前を記して、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました！

田上容子さん、安田明子さん、金谷泰子さん、大野真理子さん、高間みさ子さん、千葉太極拳「千城会」の皆さん、窪田富貴子さん、海江田周子さん

《つづきクラブブリン200号記念特別寄稿》

YMCAに見るキリストチャーニティー

鈴木 茂

私が2006年に、林 茂博さんに誘われてワイズメンズクラブ（以下・ワイズ）に入会し、その入会の条件として横浜YMCAの会員になってから17年が経ちました。以来私は、YMCAの様々な行事やイベント等に参加させていただいてきました。

私がYMCAについて最も高く評価している点は、その設立当初の使命観すなわち「イエス・キリストの愛と奉仕の教えの実践」の精神が現在も脈々と受け継がれていることです。1844年、ロンドンでジョージ・ウィリアムズを中心とする12名の教会青年たちが立ち上げたYMCAは、産業革命の進展下、地方から都会に出て工場や商店で働く同世代の青年たちの過酷な労働条件や生活環境に心を痛め、彼らの魂の救いのために始めた祈祷会から出発したと伝えられています。YMCAの創設者たちは、過酷な労働環境故に薬物やアルコール等によって、身を持崩す危険にあった同年代の仲間たちを救おうと立ち上がったのであります。まさに、世の中の片隅に追いやられた弱い立場の人に寄り添う、というイエスの教えの実践を目指したわけでありす。

この「イエスの教えの実践」という使命は、現在のYMCAにおいても全ての事業に共通する基本精神となっていますが、特に、互いに相手を思いやり、助け合うことを大切にす「キャンプ事業」を中心とする野外活動は、この使命の実践の場として重視されています。

ロンドンでYMCAが創設されてから11年後の1855年、赤十字社の設立にもかかわったアンリ・ジュナンの参加も得て、第1回YMCA世界大会がパリで開催され、YMCAの使命が「パリ基準」として明文化されました。

【パリ基準】

「われら世界のYMCAは、イエス・キリストを聖書に従ってわが神わが救い主として仰ぎ、信仰とその生活において彼の弟子でありたいと願う青年たちを一つとし、イエス・キリストの精神が広く青年の間に生かされるよう、その努力を結集する」。この「パリ基準」は現在も世界のYMCAの憲法になっています。

また、19世紀後半以降YMCAの正章（シンボルマーク）となっている赤い正三角形は、人間の精神（SPIRIT）、知性（MIND）、身体（BODY）の均整のとれた成長の姿を表し、この三つの側面の統一体であるという人間理解とともに、YMCAがこの三側面のバランスのとれた人間の成長に貢献したいという意思を表明していると言われています。

横浜YMCAは現在、健康教育、語学、専門学校、保育、高齢者、オルタナティブ（発達障害者支援活動）、アフタースクール（放課後学童活動）、施設運営（富士山YMCA・三浦YMCA等）の8事業を運営しています。各事業とも3年に及ぶコロナ感染禍では大きな打撃を受け、一部事業の撤退、閉鎖といったリストラも余儀なくされましたが、現在は何とか立ち直っています。

私が所属している常議員会では、こうしたYMCAの事業運営における懸案事項はもちろん、事業方針、事業計画、予算・決算等を協議、決議しなければなりません。私自身がYMCAの将来を展望して特に対策が必要であると考えている点は、YMCA運動の原点であり伝統でもある会員組織のキリストチャーニティー対策であります。日本の都市YMCAは現在、法的、対外的には公益財団法人化され、法的な権限と義務を有する財団法人と、法的な制約が少ない任意団体としての会員組織とが合体した形となっています。横浜YMCAにおいては任意団体である会員組織の下に、財団法人を設置することを任意団体の会則が定めています。一方、財団法人法には会員に関する規定は存在せず、たとえば「公益財団法人横浜YMCA」は会員ゼロでも存立し、活動を続け得る体制になっています。しかし、それではYMCA創設の精神であり、原点でもある会員運動としての使命を実現することはできません。会員運動としてイエス・キリストの教えを実践することこそ、YMCAの使命であり生命であると考えられます。

YMCAがイエス・キリストの教えの実践を使命として堅持するためには、会員組織のキリストチャーニティーを大切に守り貫いていかなければなりません。公益財団法人制度の枠組みの中だけでは、YMCAのキリストチャーニティーを維持することはできません。YMCAのキリストチャーニティーは、単にキリストの会員を増やせば実現するといった単純な問題ではありませんが、やはり任意団体の会員組織ができるだけ多くのキリスト会員を確保することが最大の決め手になります。

横浜YMCAでは、キリストチャーニティー堅持の歯止めとして、①会員総会において議決権及び常議員の被選挙権をもつ総会構成員は、キリスト者が半数以上、②常議員（30名）の構成は、キリスト者が全体の3分の2を下らない、③財団法人の評議員は過半数、理事は全員がキリスト者、④財団法人の監事は1名以上をキリスト者とする、などの縛りを任意団体の会則の中に設けています。

＜次頁へ＞

〈前頁より〉 このクリスチャニティーに関する規定は、日本のキリスト者人口が減少を続けている今日、遵守、堅持して行くことは決して生易しいことではありません。しかし、厳しい環境にあるからこそ、YMCAはこの規定の意義を再確

認し、クリスチャニティー回復に真剣に取り組むことが求められていると考えられます。

以上

2023年1月15日

《報告》

2023年2月度事務例会

岡田 美和 記

日時：2023年2月14日（火）17:00~19:00

会場：夢Café（みんなの家）

司会：今城高之会長 報告：岡田美和書記

出席者：今城 T・H、大野、岡田、鴨下、坂口、
鈴木 K・S、辻 Ta・Ts、横田

= 議事概要 =

1. 開会点鐘・黙祷 今城高之会長
2. 会長挨拶 今城高之会長
 - 以前、当クラブで卓話をしてくださった日下部美幸ワイズ（鎌倉クラブ）が急逝され葬儀に今城が出席したことを報告。
3. 審議・検討事項
 - 1) 2022-23年度クラブ・部役員人事の確認について
 - ①1月のクラブ総会で決まった次期会長、副会長（今城T、鈴木S）に次いで、次期のクラブ書記、会計の選任を行い、書記には岡田美和、会計には横田孝久がそれぞれ留任することとなった。なお、監事には辻 孝子が留任（3期目）
 - ②湘南・沖縄部次期部長からの要請を受け、辻 剛ワイズが、リモート参加の条件で部監事就任を受諾することとなった。
 - 2) ウクライナ支援について
去る2月6日、「十日市場地域ケアプラザ」にて、横浜YMCAのスタッフがお世話をするウクライナ避難民支援クラブ（みどりクラブ）へ手織りマフラー、帽子等の贈呈をした。
当日はウクライナの方々11人が参加され、当クラブから今城H、大野、辻 Ta・Ts が参加して手作りを贈呈。同時に集めた衣料品は当クラブより「寿地区センター」へ届けることとなった。
4. 年度後半のクラブ活動について
3月、4月の卓話者は、川越さん（江田教会）、太田さん（北YMCAの予定）。
なお、5月本例会（5/26 金）は横浜北YMCA、つるみクラブとの三者交流会を予定している。

5. プリテン発行について

- 巻頭メッセージの執筆が重荷との意見もあり、今後の進め方について議論したが、年1回程度のことでもあり、都度執筆者の都合を十分考慮することを条件に、これまで通り、原則全員の持ち回りとする。
- 編集担当より校閲チームの編成について要望があったが、これまでと同様、クラブ役員が担当する。坂口ワイズが参加してくれることとなった。

6. 2022-23年度各種献金について

- 今年度の献金につき、現行予算では、前年通りほぼ全項目での実施となっているが、会長より、クラブの財政状況、事業費と献金額のバランスなどを勘案し、ほぼ半額に減額したいとの提起があった。
- 予算内容の変更に関わることから臨時クラブ総会を開き、辻ワイズの提案を基に見直しを行い、今年度は「CS」「FF」「TOF」「YES」の4項目に対して標準金額の献金を行うこととなった。

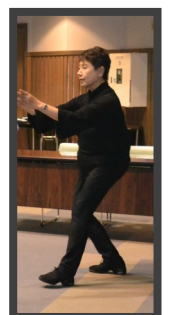
7. 行事予定

- 2/15（水）TKB 誕生日カードづくり
- 2/19（日）「国際・地域協力のための街頭募金」新横浜駅前広場13:00~14:00
- 2/24（金）本例会（かけはし都筑 17:00~）
- 3/3（金）認知症サポーター養成講座・認知症予防運動（コグニサイズ）体験会
13:00~15:00 横浜北YMCA
- 3/14（火）事務例会（@田園都筑教会 17:00~）
- 3/15（水）TKB 誕生日カードづくり
- 3/24（金）本例会（かけはし都筑 17:00~）

8. 黙祷・閉会点鐘

閉会後は中華レストランにて会食。

当クラブの例会で「気功」をテーマに卓話を下さり、デモンストレーションを見せて下さった日下部美幸さんの在りし日のお姿。



2月に入り、梅の開花も見られ、春の訪れを感じる季節となりました。横浜YMCAでは、現在、「ピンクシャツデー」の活動に取り組んでいます。「ピンクシャツデー」は、2007年、カナダの学生2人からはじまった、いじめ反対運動です。

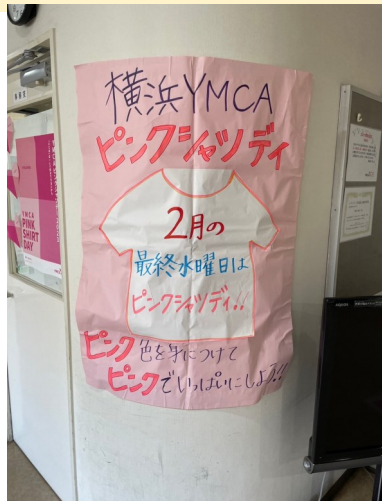
横浜北YMCAでは、2月上旬より、水泳や体操などのプログラムに通う幼児、小学生、中学生の子ども達に、「ピンクシャツデー」の取組みを伝え、いじめについて考えるきっかけとなるよう、Tシャツの形に切り取られたピンク色のカードに、様々なメッセージを書いて提出をお願いしています。

現在、50名近くの子供達からメッセージが寄せられ、メッセージの中には「みんな一人一人こせいがある」、「みんなでみとめあう」「たすけあう世界」、「みんなやさしさを持ちよう」、「みんなで友だちとなかよくする」、「ともだちをたいせつ

にする」、「男女かんけいなくさべつをしないようにしたい」、「白人、黒人ビョードに」等のメッセージが書かれています。その中でも私は「皆一人一人個性がある」という言葉に惹かれました。神様からいただいた賜物（個性）を大切に、互いに認め合う気持ちが大切なのではないかと感じました。

いじめは、子ども達同士が仲良く遊んでいるのか、相手を傷つけているのか、いじめている人や周囲の人も気づきにくく、いじめを受けている人が深く傷つく場合があります。私は、子ども達に、いじめを受けていると感じたら、周囲の人に相談をしよう、友だちから相談を受けた場合は、できる限り助けてあげようと話しをしています。

いじめを無くすこの取組みが子ども達をはじめ、家族や地域に広がり、平和な社会が訪れるよう、今後も継続的に活動を行っていきたくと思います。 (完)



《TKBお仕事会報告》

2月も、東日本大震災被災地の、宮城県山元町の「みやま荘」のご高齢者と「つばめの杜保育所」の子どもたちに誕生カードを送りました。皆さんのお幸せを心よりお祈りしながら。



2月のカードは可愛いオニの折り紙で飾りました。

VIVA! ブリテン200号
▽本号がブリテン発行200号目となります。クラブ設立が2006年5月13日なので、第1号が2006年5月号、毎月発行していれば昨年末の12月号が200号であったはずですが、途中、何らかの理由で2か月の休刊があったようで、本号をもって200号と言うことになりました。途中、2人の編集担当がいて、現「編集子」が3人目となります。かつての編集担当は残念ながら既に退会しておられますが、先輩に感謝です。こうして長く続けることが出来た一番の貢献者は、何といたって、記事を書かせて下さったクラブメンバーの皆さんです。ありがとうございます！ これからも何卒よろしくお願ひします。▽この地球上では、大勢の人々を不幸のどん底に追いやる戦争があらこちらで続いており、中でも、ウクライナの現状は目を覆うばかりです。そんなウクライナのの人たちに少しでも暖かく過ごして頂こうと、当クラブでは、YMCAの力を借りて、横浜に住むウクライナ避難者の方たちに手編みのマフラーと帽子をお届けしました。体の暖かさは勿論のこと、心の温かさも伝えることが出来たようです。これからも、我々が出て来る範囲で、ウクライナの方々の力になりたいと思っています。(編集子)

.....編集後記.....